

「図画工作科」(さらづくり) 学習指導案

1. 日時 令和 元年 12月

2. 場所 窯業室

3. 学部・学年・組 小学部 第4学年

4. 単元(題材)名 「ねんどづくり・さらづくり」

5. 単元(題材)目標

- ・腕や、手のひら全体、指先など体をよく使って制作することができる。
- ・木槌、めん棒、型紙、へらなどの道具の使い方を知り、適切に使うことができる。
- ・素材に親しみ、つくり出す喜びを味わうことができる。

6. 児童観

略

7. 教材観

本単元では、様々な素材を使用し、素材の持つ面白さや変化を感じることによって、感性を育み自分自身の世界を広げることを目標として活動を行っている。今回の「ねんどづくり・さらづくり」という教材に取り組むに当たって、ドロドロしたものや手の汚れるものを触るのが難しい児童もいたが、1学期からトイレトペーパー粘土や片栗粉粘土に取り組み、苦手意識を克服しつつある。

本教材では、20cm程度の乾燥した粘土の塊を、砂状になるまで木槌や金槌を使って砕き、更にふるいにかける。それに水を入れ、こねて粘土を作成し、その粘土を使って造形遊びをしたり、皿を作成したりする。素材から自ら粘土を制作し、成功体験を積むことで、制作活動の面白さを感じられるようにしたい。それによって、より主体的に活動したり、完成した作品に愛着を持ったりすることができると考える。また、活動の中で様々な用具や技法を経験することができる。

今回は簡単に手に入る、陶芸用の乾燥して硬くなった粘土を利用した。乾燥した粘土を木槌で粉状になるまで砕く際には、大人でも腕が疲れるぐらいの力が必要である。床にブルーシートを敷き、粘土板を置いてその上で木槌を使用する。児童でペアを作って、疲れたら声を掛け合って交代しながら取り組むよう言葉かけをしていく。粉状の粘土に水を混ぜながら粘土を作る工程では、ふるいにかけたさらさらの砂が、水を加えてこねることによって粘土に変化するところを、児童自身の手で感じられるようにしたい。その後、粘土を使った遊びに取り組み、皿の制作につなげることができる。

8. 指導観

子どもたちが興味を持って主体的に取り組む態度を大切にしたい。本グループは視覚的な情報があることでイメージをもちやすいため、一つ一つ手本を見せたり、初めは一緒に制作を行ったりする。また、児童によって作業を進める速度の差が大きいので、一度に説明せず一工程ずつ、授業の流れを合わせながら取り組む。児童によって手先の巧緻性が異なるため、目標や手だてを変えて取り組むことが必要である。

また、自分たちの制作によって素材が変化したことを、自らの感覚で確認しながら進めていきたい。作品ができ上がった際は、鑑賞の時間を設け、自分の作品や、感じたことを言語化して発表することで自尊感情を高めていくことができると考える。友達の作品や発表を見たり聞いたりすることで、作成物の違いを理解し、互いに認め合うことができるようにつなげていく。

9. 単元(題材)の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
①木槌の適切な使い方を理解している。 ②腕や手のひら全体を使って、粘土を混ぜている。 ③(A)型紙とへらを使って粘土を切っている。 ③(B)めん棒を使って粘土を伸ばしている。	①素材に実際に触れて、変化を感じている。 ②お皿に自分で考えた絵柄を描いたり色をつけたりしている。	①友だちと協力して、乾燥した粘土を粉状になるまで砕こうとしている。 ②自分から粘土に触れ、こねたり、たたいたり、つまんだり、のばしたりなどの様々な活動に取り組もうとしている。 ③制作した作品を振り返り、紹介しようとしている。

10. 単元の指導と評価の計画(全5時間、本時は第3時)

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
1	1	ねんど作り①	・木槌の使い方を学ぶ。 ・ペアで乾燥した粘土を砕く。	・安全に取り組めるよう、広い場所で活動を行う。 ・手が疲れてきたら、友だちに声をかけて交代するように伝える。	A① B① C①
	2	ねんど作り② ねんどあそび①	・乾燥した粘土をふるいにかける。 ・水を混ぜて粘土を作る。 ・自由あそび	・粉塵が舞うのでマスクを着用する。 ・手のひらや指先を使ってまんべんなく混ぜるよう言葉かけをしたり、指差して伝えたりする。	A② B① C①
2	3	お皿作り	・ねんどを板状に伸ばし、型紙とへらを使って切る。 ・竹串で絵柄を描く。	・1工程ずつ確認しながら行うよう促す。 ・始めは手を添えて一緒に行うよう促す。	A③ B② C②
	4	彩色	・素焼きしたお皿に色を塗る。	・1工程ずつ確認しながら行うよう促す。	B②
3	5	鑑賞	・作品を発表する。	・手本を示す。 ・友だちに注目し話を聞くようことばかけする。	C③

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・めん棒を使って粘土をのばすことができる。
- ・型紙とへらを使って粘土を切ることができる。
- ・お皿に自分で考えた絵柄を描くことができる。

(2) 本時の評価規準

- ・めん棒を使って粘土を伸ばしている【知識・技能③(B)】。
- ・型紙とへらを使って粘土を切っている。【知識・技能③(A)】
- ・お皿に自分で考えた絵柄を描いたり色をつけたりしている。【思考・判断・表現②】

(3) 本時で扱う教材・教具

- ・粘土・粘土板・めん棒・型紙・へら・布巾

(4) 児童の実態と本時の目標

略

(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準(評価方法)
5分 導 入	挨拶 本時の説明	前に立つ指導者に注目するよう言葉かけする。 ホワイトボードに本時の流れを明記する。	
40分 展 開	粘土を叩いてのばす。 粘土をめん棒でのばす。 型紙を使って粘土を切る。 絵柄を描く。 粘土の端をつまんで持ち上げる。 片付け	1工程ずつ見本を見せながら、ペースをそろえて作業を行う。 2グループに分かれて行う。 必要に応じて、めん棒に手を添える位置などを伝える。 どのくらいの厚さにするか見本を示す。 見本を見せる。 持ち方や手の添え方を確認し、1辺は指導者が手を添えて一緒に切る。 児童が発想しやすいように、何種類か、絵柄を提示する。 見本を見せる。 児童の実態に合わせて指導者が手を添えて一緒に行うなどの支援を行う。	・めん棒を使って粘土を伸ばしている。 【知識・技能】 ・型紙とへらを使って粘土を切っている。 【知識・技能】 ・お皿に自分で考えた絵柄を描いたり色をつけたりしている。 【思考・判断・表現②】
5分 ま と め	作品の発表 本時の振り返り 次回の授業の予告 終わりの挨拶	ホワイトボードに発表の仕方を描き、指導者が見本を見せる。	

(6) 教室配置等(正面を上にして、児童生徒や教員の位置、準備した教材・教具の位置、配置等を示す。)

略